

顔面神経麻痺を呈した子牛から分離された
溶血性リステリア菌に対する疫学的調査

京都府丹後家畜保健衛生所

○田中義信 極山 太

【はじめに】 *Listeria ivanovii*による牛や羊の流死産、*Listeria seeligeri*による人の髄膜炎が報告されている。今回、一酪農場で左片側性の顔面神経麻痺、角膜混濁及び耳下垂並びに単球増多所見を呈した黒毛和種子牛1頭（2か月齢）の糞便から β 溶血性リステリア菌（*L. ivanovii*及び*L. seeligeri*）を分離した。そこで、本菌が原因と疑い、感染源の究明と対策のため、調査を実施した。【方法】当農場は、サイレージの給与はなく、山水を沈殿処理して給与していたため、水系からの感染を疑い調査を実施した。①環境調査；水系順に山水、貯水槽、沈殿槽、蛇口の4調査点から水を採材し、BHIブロス、ALOA培地及びPALCAM培地により菌分離し、性状を確認後、Api Listeriaにて同定した。②水系消毒効果；沈殿槽の塩素消毒を指導し、各調査点の細菌検査により、消毒効果を検討した。【結果】①消毒前の蛇口水から*L. ivanovii*、全調査点から*L. seeligeri*を分離した。②消毒後、沈殿槽及び蛇口からリステリア菌は分離されず、一般細菌及び*E. coli*の菌数も著しく減少した。【考察】リステリア菌の感染源として変敗サイレージ以外に、水も重要な感染源の一つとなりうると考えられる。また、*L. ivanovii*及び*L. seeligeri*による牛の神経麻痺への関与について調査する必要があると考えられる。